

オリエンタル エアブリッジの安全の取組み



ヒューマンファクターズ教育の実施

航空事故・インシデントなどを未然に防止するため、ヒューマンエラーを防止するためヒューマンファクターズ教育を2年に1回、テーマを決め社長含む全社員(注)に実施しています。

●平成19年度 訓練内容

- ・前回訓練(訓練の目的と根拠、ヒューマンファクターとは、ヒューマンファクターとヒューマンファクターズの定義、SHELLモデルの紹介)の復習
- ・安全性と効率性について

注:乗務員はCRM訓練により毎年実施しています。

安全教育の実施

社員、契約社員および嘱託社員の入社時に各部門の専門教育とは別に総務部において以下の安全教育を実施しており、生産部門(注)では毎年安全教育を実施しています。

新規教育

- ・安全管理体制
- ・社長コミットメント
- ・安全理念
- ・安全方針
- ・安全管理規程の全般
- ・安全教育、ヒューマンファクターズ教育訓練、危険物教育訓練の概要
- ・ヒヤリハット・危険予知情報の報告制度
- ・安全推進委員会ホルダーの全般

定期的教育

● 運航部

年1回、定期訓練等において最近の事故・重大インシデントおよびインシデント等の事例を反映させた以下の安全教育を実施しています。

・ 運航乗務員

→ 定期訓練時に模擬飛行装置により最近起こった事故・重大インシデント例を取り入れた科目の設定。

→ 同乗フライト時に安全に係るテーマによるディスカッション。

・ 地上運航従事者

→ 定期訓練時に社内のCaptain / Dispatcher Reportのレビューおよび社外の事故・重大インシデント等のレビュー。

● 整備部

定期訓練(技量維持訓練)において品質管理体制の向上、技量の維持管理、ヒューマンファクターに係る不具合の防止等を目的とした安全教育を実施しています。

●業務部

・客室乗務員

定期訓練時に他社で発生した緊急事態を参考にして、機内で起こりうる緊急事態の模擬訓練およびディスカッションを実施しています。

・地上取扱業務の管理部門(注)

年度毎に安全教育年間訓練計画を策定し、定期的に安全教育を実施します。

20年度の安全教育の訓練内容

→安全情報に関するVTR視聴

→空港規則・安全規則についての質疑応答

注:地上取扱部門は今年度より実施します。

運航乗務員の取組み

- ・航空機の技術的な検討を行なった場合にEngineering Reportを発行しています。
- ・航空機のオペレーション全般に関わる運用を運航乗務員に周知するために運航技術Informationを発行しています。

客室乗務員の取組み

- ・2ヶ月に1度、客室乗務員全員参加により、安全や保安に関わるテーマや実際に発生した事例を基にテーマを決めディスカッションを実施しています。
- ・安全や保安に関わる月間目標を定め、毎月筆記による知識確認を実施しています。

整備士の取組み

社内のみならず社外の安全に係わる情報に基づき、作業安全・作業品質の向上を図るため、整備作業に関する技術的注意、助言および解説について Technical Service Informationを発行し、整備作業の現場に周知徹底しています。

機材トラブル情報の公開

当社の安全運航への取組みをお客様に理解していただくため、本年4月より機材トラブルによる欠航が生じた場合は、当社ホームページの運航情報において発生日時、便名および概要を公開しています。



予約・購入

時刻表・空席

運賃

搭乗ガイド

お客様サポート

安全への取組

安全への取組

Safety

安全理念

安全報告書

運航情報 ORC Flight Date

2008年3月～2008年4月まで

- ・2008年4月
機材トラブルによる欠航便はありません。
- ・2008年3月

発生日時	便名	出発地	到着地	概要
3月10日	678便	対馬	長崎	離陸前に発電機の故障を示すライトが点灯、部品交換に時間を要するため欠航した。
3月14日	315便	長崎	福江	巡航中に、副操縦席側の窓ガラス(3層になっている)の中に貼ってある温熱用の膜(凍結防止)の一部に不具合が見つかり、修理のため引返した。窓ガラス交換に時間を要するため欠航した。
3月15日	531便	長崎	鹿児島	離陸しようとしたが、離陸警報がなったため引返した。フラップのスイッチを交換するのに時間を要するため欠航した。

安全管理

会社は、日常において安全に関する業務の手順が確実に実施され維持されていることを確認するために

- ・専務取締役のデスクを運航乗務員および運航管理が見渡せる位置に配置しています。
- ・常務取締役のデスクを客室乗務員および地上取扱業務管理部門が見渡せる位置に配置しています。

安全情報の収集・伝達および共有

日常業務の状況を的確に把握するため、その遂行する業務全般において発生する社内安全情報(各部門の義務報告・ヒヤリハット・危険予知情報(注)等)や社外安全情報を各部門で積極的に収集し安全推進委員会に報告しています。同委員会は、収集した情報を「安全推進委員会ホルダー」で社内に公開し、すべてのパソコンから閲覧できるようにしており、安全情報を全社員で共有しています。

注:ヒヤリハット事例に至る前の危険な状況(状態)を事前に発見したものを報告し、その原因を究明し事故の要因とならないように不安全要素を排除するものです。

安全の取組を「大阪航空局管内の航空事業者懇談会」で報告

2008年5月26・27日、大阪にて国土交通省大阪航空局主催の「大阪航空局管内の航空事業者懇談会(注)」が開催されました。懇談会の中で弊社の安全の取組みの一部を報告いたしました。今後とも一層の安全性の向上に取り組んでまいります。

(注) 懇談会は、大阪航空局から現在の航空を取り巻く情報を発信し、また、航空運送事業者からの意見、要望等をできる限り反映することにより航空の安全・安心および航空行政への参考、さらには航空の発展に寄与することを目的として開催されるものです。

